

幼稚園

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

幼 稚 園

東京都教職員研修センター

平成13年度

教育研究員名簿

地区名	幼稚園名	氏名
中央	日本橋	加藤 淳子
港	三光	大島 美知代
台東	竹町	池原 歌子
江東	東砂	佐藤 千恵子
品川	伊藤	西ヶ谷 郁子
世田谷	給田	松原 利江
杉並	高円寺北	若林 美喜子
北	うめのき	◎ 重安 智子
葛飾	飯塚	○ 矢野 靖子
東久留米	上の原	永井 麻理

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 高木 基行

目 次

I	主題設定の理由	2
II	研究の内容・方法	
1	研究の概要	2
2	研究主題のとらえ方	3
3	主題に迫る教師の役割	3
4	事例研究	5
	事例1 友達と考えや思いを伝え合って遊びを楽しんだ事例 (5歳児6月)	6
	事例2 初めて出会う素材とのかかわりを通して友達の実在を感じた事例 (3歳児5月)	11
	事例3 自分らしさを出しながら他の友達の動きを意識していく事例 (3歳児9月)	13
	事例4 友達とのかかわりの中で自分らしさの出し方を模索している事例 (4歳児6月)	14
	事例5 外国籍の幼児が興味をもった遊びの中で友達との触れ合いを 楽しんだ事例 (4歳児10月)	18
	事例6 友達とのつながりの中で、自分らしさを生かしながら 遊びを楽しんだ事例 (5歳児11月)	20
III	まとめと今後の課題	
1	幼児が自分らしさを発揮して遊びを楽しみ、 充実した生活を送るための教師の役割	23
2	今後の課題	24

幼児が自分らしさを発揮して遊びを楽しみ、充実した生活を送るための教師の役割

I 主題設定の理由

幼稚園では、幼児が身近な環境に自らかかわって遊びを中心とした生活を送り、遊びの楽しさ、やり遂げた喜び、友達とけんかした悔しさ、友達と意見が違い思うようにいかないもどかしさなどの様々な体験を通して発達に必要な経験をする。

しかし、近年入園してくる幼児には、生活に必要な基本的な習慣が身に付いていなかったり、「できないかもしれない。」という不安から取り組もうとしなかったり、自分の思うようにいかないと攻撃的になったりする姿が見られる。これは、入園前に地域社会等で様々な人や物、場とかかわる機会が少なく、満足感や充実感を味わう体験、葛藤体験や挫折体験を十分にしていないことに起因していると考えられる。

初めての集団生活の場である幼稚園では、まず幼児が安心してありのままの自分を出して遊びを楽しむ。そして次第に遊びの中での様々な体験を通して、やり遂げた喜びや満足感を味わうことが大切であると考えられる。

そのために、教師は幼児が興味をもってかかわりたくなる環境を構成し、幼児が始めた遊びを大切にしながら、遊びの楽しさを味わっているか、どのような経験をしているか、これから必要な経験は何かなどを見取って援助していくことが必要である。それによって、幼児は「自分らしさ」を発揮して自信をもち、集団とのかかわりの中でより充実した生活を送ることができる。

そこで、幼児が自分らしさを発揮して遊びを楽しみ、充実した生活を送るためには、教師はどのような役割を果たすことが必要か、具体的な教師の役割を明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容・方法

1 研究の概要

研究のねらい

・遊びの中で幼児の「自分らしさ」はどのように発揮されているかを探り、幼児が充実した生活を送るための教師の役割を明らかにする。



研究の方法

・幼児の姿を検討し、「自分らしさ」「充実した生活」について共通理解をする。
・研究保育及び日常の保育事例の記録を観察対象児の興味や関心のもち方、環境とのかかわり方の視点で分析し、その幼児の「自分らしさ」をとらえ、主題に迫るための教師の役割を考察する。



研究のまとめ

幼児が「自分らしさ」を発揮する姿に応じた教師の役割

2 研究主題のとらえ方

研究を進めるに当たり、私たちは幼稚園生活における幼児の様々な姿を検討し、主題について次のようにとらえた。

- ・ **自分らしさ**…幼児の周囲の環境の受け止め方や環境への働き掛け方などその幼児なりの環境とのかかわり方やものの感じ方。

「自分らしさ」はもって生まれた資質や能力とともに、生活する環境やそこで経験する内容によりつくられるものであり、様々な環境とのかかわりの中で喜び・楽しさ・つまずき・葛藤などの体験を通して次第に確立していくものとする。

- ・ **充実した生活を送る**…幼児が幼稚園という集団生活の中で、意欲をもって環境にかかわり、自分の力を発揮して生活するとともに、そこで獲得したものを自分の中に取り入れ、自分の生活内容をより豊かなものにしていくこと。

入園した幼児は、幼稚園という集団生活の中で場や物、人など新しい環境に対して安心感や信頼感をもつことにより、「自分らしさ」を出して遊ぶようになる。そして、友達との共感や遊びの楽しさなどを感じることで周囲の環境により積極的に働き掛けるようになる。また、今までの「自分らしさ」では対処できない問題に出会うことでつまずきや葛藤を体験し、その状況を克服することにより、新たな環境とのかかわり方に気付いていく。

そして、幼児は「自分らしさ」を発揮して満足感・充実感・成功感・達成感などを味わうことで、自分に自信を感じたり自己肯定感をもったりして自分自身の新たな可能性に気づき、「自分らしさ」を変容させ、環境とのかかわり方を変化させていく。

このような経験を重ねることで、物事への取り組みに対する意欲が高まり、充実した生活を送ることができるようになることを考えた。

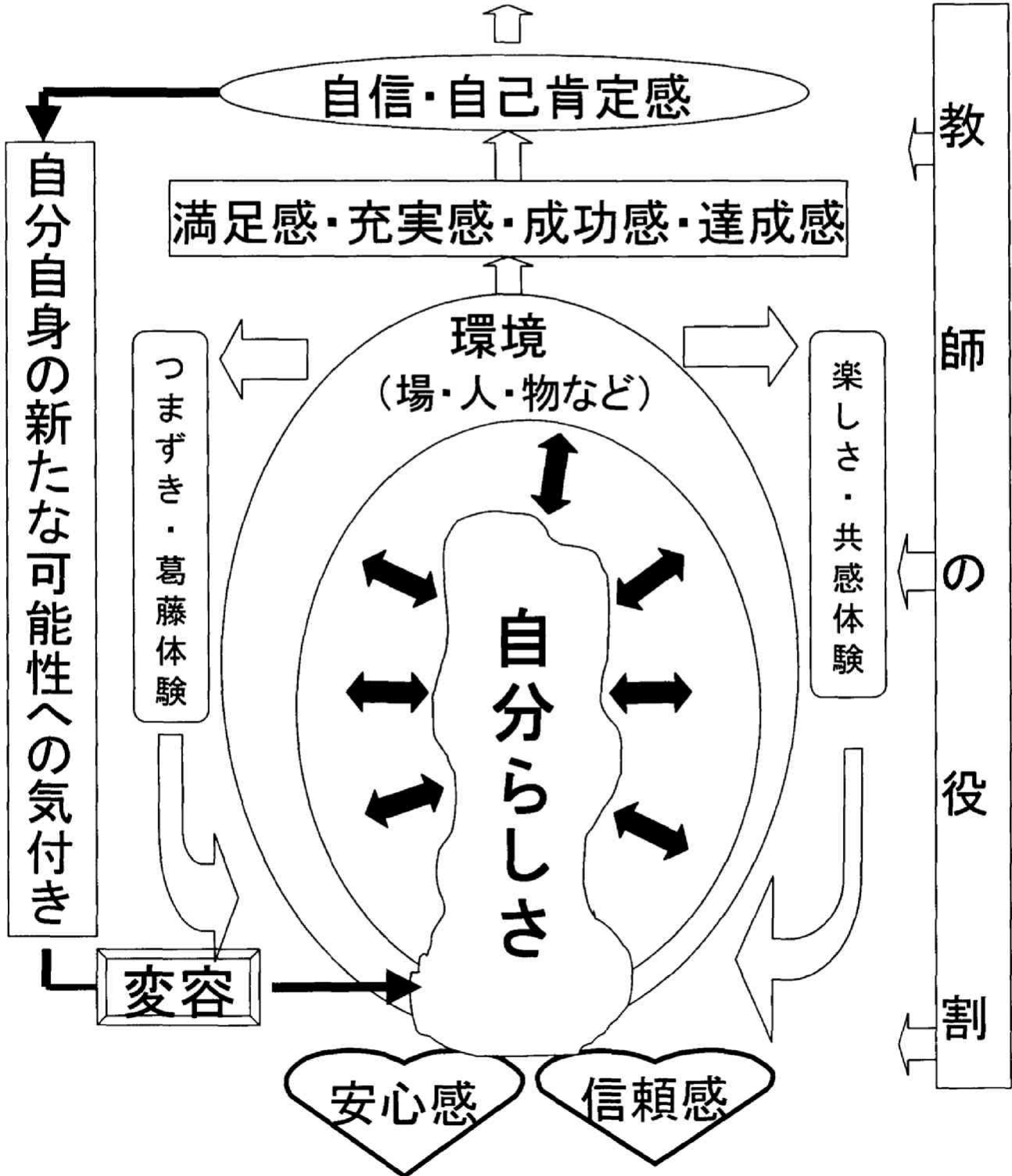
3 主題に迫る教師の役割

上記のように幼児が自分らしさを発揮して遊びを楽しみ、充実した生活を送れるようになるためには、幼児の生活全般に対して様々な教師の役割が必要であると考え、今回の研究では、次の視点で事例を分析・考察し、主題に迫ることとした。

- ・ 幼児の「自分らしさ」は一人一人異なっている。同じようにみえる言動でも幼児によって思いや考えは様々であり、同じ遊びをしていても、経験している内容は様々である。その幼児の「自分らしさ」を理解し、思いや考え、経験している内容をとらえ、今、「自分らしさ」を発揮していくためにはどんなことが必要か、遊びをより楽しめるためには何が必要かを考察し、教師の役割を明らかにする。
- ・ 幼児は様々な「自分らしさ」をもって環境とかわる。その中には「自分らしさ」を変容させることで、より充実した生活に結び付くと思われるかかわり方もある。幼児が今を楽しめるためだけでなく、今後その幼児が充実した生活を送るためにはどのような経験をしていくことが必要か、一人一人の幼児の発達過程を踏まえ、教師の役割を明らかにする。

充実した生活

意欲



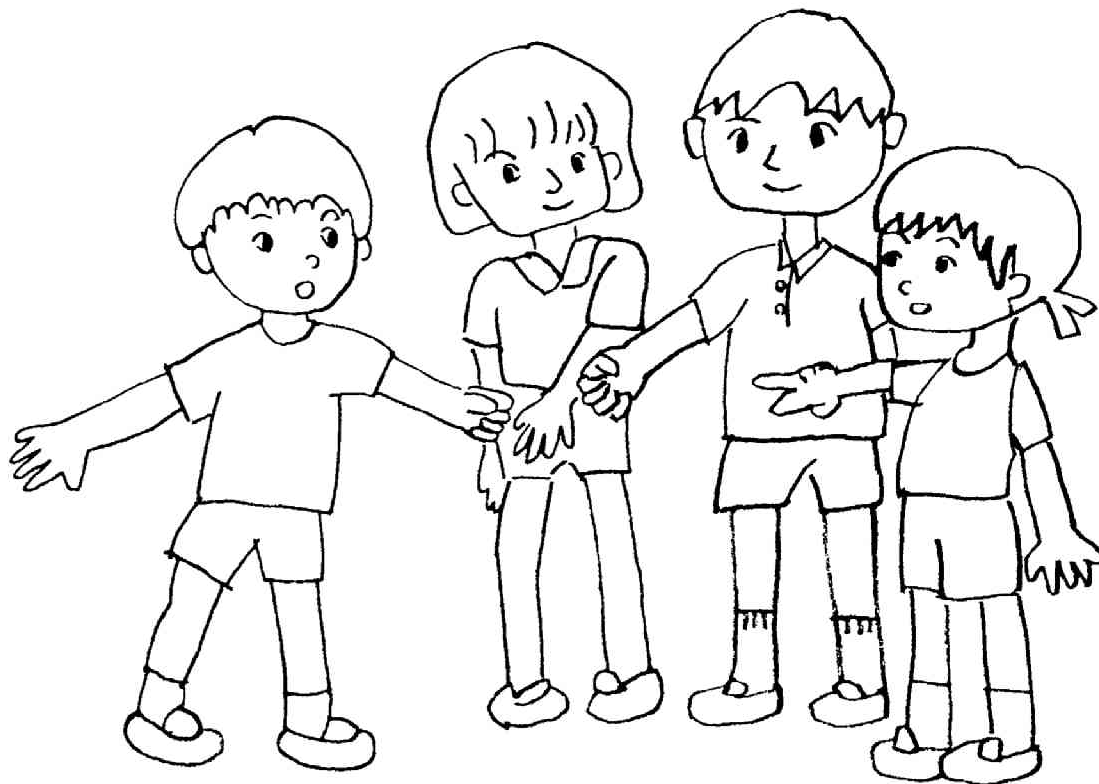
4 事例研究

研究主題に迫るために、次のような手順で事例研究を進めた。

- (1) 研究員在籍園で研究保育を行い、観察対象児を中心とした行動観察記録をとる。
(平成13年6月)
- (2) 各研究員の保育実践記録を持ち寄る。
- (3) 以上の記録を、
 - 対象児の興味・関心
 - 対象児の友達や教師とのかかわり方
 - 対象児の場や物とのかかわり方
 - ◎教師の意図の視点から分析する。
- (4) ・分析結果から、観察対象児の「自分らしさ」を考察する。
・幼児が「自分らしさ」を発揮して充実した生活を送ることができるようにするための教師の役割を考察する。

なお、事例1では考察を導き出すために、事例を検討する中で、

- ・行動観察記録の分析から観察対象児の「自分らしさ」をどのように読みとったか。
 - ・教師は、観察対象児に対してどのようにかかわったか。
 - ・観察対象児が「自分らしさ」を生かして遊びを楽しみ、「充実した生活」を送るためには、教師はどのような役割を果たしたらよいか。
- という協議の経過を詳しく示した。



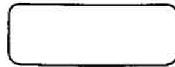
事例1 友達と考えや思いを伝え合って遊びを楽しんだ事例（2年保育5歳児6月）

(1)自分なりのイメージにこだわりをもち、それを実現するために環境に積極的にかかわる

幼児と教師の言動	分 析
①A児は登園するとすぐに製作コーナーに行き、目についたカラーセロファンを丸めている。	①室内環境に目を向け、興味をもったものにすぐにかかわる。
②隣にいたB児に「ドンキーコングごっこしよう。」と言う。	②思い付いたイメージを言葉にし、B児に伝える。
③A児は製作コーナーの発泡スチロールに黄色いセロファンを巻いて、「チーズケーキ。」と言う。次に発泡スチロールに青いセロファンを巻き、「クリスタルコングできた。」と教師に見せ、「宝物にするんだ。」と言う。	③自分のイメージを実現できる。自分のしていることを教師に受け止めてほしい。
④教師は「そうか、じゃあ宝箱作ろうよ。」と言う。	④教師は、遊びのイメージをはっきりさせようと助言する。
⑤A児はお菓子の箱を宝箱に見立て、今までに作ったチーズケーキやクリスタルコングを箱の中に入れる。「俺たち海賊だ。」と言い、B児に「何か作ろう。」と言いながら、大型積み木で基地を作り始める。B児も積み木を運んでくる。	⑤一緒に遊ぶ友達に、遊びのイメージを伝え、必要な遊具を使って自分たちで場を作る。
⑥基地ができると、A児は「秘密基地だぞ。」と言い、宝箱や地図などを基地の中に隠す。B児が中へ入ってみて、「暗いね。階段作ろうよ。」と言うと、A児は「僕が作るよ。」と言って一人で積み木を運んで階段を作る。	⑥B児の考えを受けて、自分なりのこだわりをもって自分だけで作ろうとする。
⑦教師が基地の中にいる二人に「B児の座るところあるの。」と聞く。A児は「どこに座ってもいいんだよ。」と答える。	⑦教師は、A児にB児のことを意識させた。A児はすぐには受け入れない。
⑧A児は「もっとすごいもの作ろうよ。」と言い、一人でベットやお風呂や武器を次々に作る。	⑧新たなイメージが浮かぶとすぐに実現しようとする。
⑨A児は「B児も部屋作れば。」と言う。	⑨教師の言葉を意識して、友達に働き掛ける。

A児の自分らしさと教師の役割 [記録(1)の分析からの読みとり]

A児の自分らしさ



実際の教師のかかわり



考えられる教師の役割



①③⑤⑧の姿から

室内に設定された環境に興味や関心をもっている。素材を見て豊かにイメージをもち、必要なものをすぐに自分で作ろうとする。

- ・遊びに使える素材を分類して使いやすいように机の上に出しておく。
- ・素材にかかわる姿を見守り、必要ならイメージが明確になるような言葉を掛ける

⑥⑧の姿から

自分が作るものに自信をもっている。こだわりをもって自分だけで進めていく。

A児のこだわりを大切に受け止め、取組の姿を認めていく。

②⑤⑥⑨の姿から

友達と一緒に遊びたい気持ちがあり、自分から働き掛けるが、自分の思うように進めたい。

- ・ただ次々に作るだけでなく、作った物と一緒に遊んでいる友達とのかかわりをもってほしいので、友達の存在を意識させる言葉を掛ける。

③⑨の姿から

教師に認められたい気持ちがあり、自分から働き掛けたり、教師の言葉を受け入れたりする。

B児の思いを受け止め、A児が気付くような言葉を掛けるとともに、B児には、自分なりのイメージを実現できるように素材を提示したり、作り方を一緒に考え、自分の力でできた喜びを味わわせる。

A児の教師に認められたい気持ちを受け止め、時には遊びに入って楽しさに共鳴する。

(2)新たに加わった友達のイメージを受け入れ、遊びが楽しくなる

幼児と教師の言動	分 析
<p>①A児たちの場にC児が来る。A児の作った宝を見て「なんでこんな財布が宝なんだよ。」と言う。A児は宝の価値を説明する。</p>	<p>①C児に自分たちのしていることを受け入れられていないと感じ、認めて欲しいと思い、説明している。</p>
<p>②A児とB児はこれまで秘密基地だった場を海賊船に見立て、C児も加わって海賊船ごっこを始める。段ボール箱を持ってきて、海賊がやっつける鯨を作り始める。A児一人で粘着テープをはり、油性ペンで目を描く。教師は「一人じゃなくて仲間とやればいいじゃない。」と言う。</p>	<p>②遊びのイメージをもっと、すぐ、自分が実現しようとする。 教師は友達と一緒にやってほしい。</p>
<p>③C児が「これ、何、カメ。」と言う。教師は「みんなが見て、鯨って分かるといいね。鯨らしいものは何なのかなあ。」と言い、口になりそうな形の箱をばくばく動かす。</p>	<p>③C児はA児の動きを認めない。 教師は人にも分かるものを作ってほしいと思い、具体的な方法を提案する。</p>
<p>④C児は大きな板段ボールを引っ張って海賊船に行く。A児は気になる様子でしばらく見ている。</p>	<p>④C児の行動が気になっている。</p>
<p>⑤A児は「やっぱりワニにする。」と言う。B児と一緒にワニの口に歯をはり付ける。B児は一つ一つ丁寧にはる。ワニができるとA児はとてもうれしそうにする。</p>	<p>⑤教師の働きかけからワニのイメージが新たに浮かび、友達と作ることを楽しむ。</p>
<p>⑥C児が来て「何でワニなの。鯨にするって言ったじゃない。」と言う。「ワニだっていいじゃない。」「ワニより鯨の方が強いよ。」と二人で言い合う。</p>	<p>⑥C児に自分のしていることを認めてほしくて、自分の考えを主張する。</p>
<p>⑦C児は海賊船に帰り、板段ボールを積み木の上に広げ、「これ、ベットになった。」と言う。A児は「それ、気に入った。僕の積み木を使ってもいいよ。」と自分が使っていた積み木をC児の所へ運び始める。段ボールの下に積み木を全部入れ、二人はにっこりする。</p>	<p>⑦C児のしていることがおもしろいと感じ、C児のイメージを受け入れ、一緒に作る。 できあがった喜びをC児と共感する。</p>
<p>⑧A児はC児と一緒にできたベッドの上に横になる。その後海賊船の上に乗る、おもしろい格好をして笑い合う。</p>	<p>⑧C児と気持ちが通じ合ったことを感じ、一緒に遊ぶことを楽しんでいる。</p>

変容していくA児の自分らしさと教師の役割 [記録(2)の分析からの読みとり]

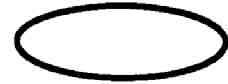
A児の自分らしさ



実際の教師のかかわり



考えられる教師の役割



②⑤の姿から

自分で考えたものは自分で作りたい。材料から次々にイメージがわき、イメージ通りに作ることに喜びを感じる。

- ・ A児が自分から積極的に次々に製作する姿を認め、見守る。
- ・ A児の製作する力に応じてより丁寧に本物らしく作ってほしいので、具体的な提案をする。
- ・ 一人ではなく友達と一緒にやってほしい気持ちをそのまま伝える。

①⑥の姿から

自分のやっていることを友達に認めてほしい気持ちがあり、C児に対して自分の考えをはっきり伝える。

A児のイメージをすぐ実現しようとする姿を「よさ」として受け止め、イメージがふくらむ素材を提示したり、A児の気持ちに沿って必要なものを一緒に考えたりする。

③④⑤の姿から

自分のしていることを認められないと、すぐには反応しないが気になっている。教師の提案を自分なりに受け入れる。

C児と互いに考えを言い合うことで、A児が自分の考えをはっきりさせたり、友達の考えのよさに気付いたりする姿を受け止め、必要に応じて互いの考えが理解し合えるよう援助する。

④⑦⑧の姿から

C児の言動に反発しながらも魅力を感じ、動きを気にする。
C児の考えが分かると、それを受け入れ、一緒に作り上げる楽しさを共感する。
相手の考えを受け入れたらおもしろくなることに気付く。

C児の考えや思いを受け入れることで、A児のこだわりが少しずつ変わってきている姿を受け止め、それによって遊びがより楽しくなったこと、その楽しさをC児と共感できたことを教師も一緒に喜ぶ。

⑤の姿から

B児に対しては、自分の遊びを受けてくれるので、安心感をもっている。

B児が丁寧にものを作り上げようとする姿をB児のよさと受け止め、B児が自分のしたいことをしていく楽しさを感じていくことができるようにする。

【考察】

〈A児の自分らしさ〉

- ・保育室内の環境をよく見て知っており、自分の遊びに合う素材を見つけて遊びに使うことができる。また、遊びのイメージが豊かであり、そのイメージを自分の力ですぐに実現しようとする。
- ・製作には自信をもっていて、意欲的に取り組む。自分の思い通りにしたい気持ちがあり、友達に任せられず、自分一人でやろうとする。
- ・遊びの中で自分の思いや考えを言葉で友達に伝えることができる。
- ・友達が自分の考えと違うと、相手に分かってもらおうと説明する。分かってもらえないと自分の考えを強く主張する。
- ・友達とかかわって一緒に遊びたい気持ちをもっている。一緒に遊び、楽しさを共有できると喜びを感じる。
- ・自分とは違う友達の考えを受け入れることで、新たな遊びの楽しさが生まれることに気付き始めている。
- ・教師には自分の遊びを認めてほしいと感じており、教師の言葉にすぐには反応しないこともあるが、教師の言動を意識して行動している。

〈充実した生活を送るための教師の役割〉

- ・A児は製作が得意で、興味や関心をもち、環境をすぐに取り入れて遊ぶので、素材、材料の分類、適当な種類などを考え、使い慣れた場所に使いやすく出しておく。
- ・自分のイメージを実現しようとするA児の取り組みの姿を大切にしながら、素材の扱い方や製作の技能などについて、教師がモデルになって示したり、具体的なやり方を知らせたりする。
- ・友達と遊びたい気持ちを受け止め、友達と一緒に遊びを進めていく姿を見守るとともに友達のよさに気付くようにする。そのために、A児との遊びにかかわるそれぞれの幼児が遊びに必要な物を作ったり、イメージを表現できるように材料を提示したり、方法を知らせたりして、自分らしさを発揮している姿を受け止め、言葉にしていく。
- ・A児の思うように遊びを進める姿だけでなく、A児とは違った考えや遊び方をする友達とかかわっている姿をとらえ、友達の考えを受け入れることで今までとは違った楽しさを味わっている場面を見逃さず共感し、A児の自分らしさの変容を認めていく。
- ・気の合う友達だけではなく、学級のいろいろな友達と相談したり、力を合わせたりする活動の中で様々な友達のよさや力に気付く機会をつくっていく。

事例2 初めて出会う素材とのかかわりを通して友達の実在を感じた事例

(3年保育3歳児5月中旬)

幼児と教師の言動	分 析
<p>①教師が流し場で白色の絵の具を入れたバケツに水を入れ、「あっ。」と声を出す。</p> <p>②教師の声を聞いて、A児・B児が教師のそばに来てバケツをのぞき込む。</p> <p>③「あっ。牛乳だ。」とA児が叫ぶと、「Bちゃん、牛乳大好き。」とB児が言う。</p> <p>④教師はバケツの中を静かにかき回しながら、「不思議だね。」と言う。</p> <p>⑤その様子を聞いていたC児がそばに来てバケツの中をのぞき込み「Cちゃんね…今日牛乳いっぱい飲んだよ。」と教師を見て言う。</p> <p>⑥A児が「どうして…牛乳でるの。」と言うと、教師は「どうしてだろうね、不思議だね。」と答える。</p> <p>⑦「うちのお姉ちゃん…牛乳嫌いなんだよ。」とC児が言う。</p> <p>⑧「そうだ、魔法使いがいるんだ。」と突然A児が言うと、B児が「魔法だ！チチンプイって言って牛乳出したんだよ。」と言い、A児もうなずく。</p> <p>⑨A児とB児のやりとりを聞いてD児、E児がバケツのそばにくる。</p> <p>⑩「なんか牛乳飲みたくなっちゃた、ほんとうに飲めるの。」とC児が聞く。教師が「どうかな、牛乳の匂いする。」とみんなに聞く。</p> <p>⑪「するする。」「しない。」「なんか違うみたい。」など様々に答える。</p> <p>⑫「魔法使い…幼稚園にいるの。」とD児が言うと、A児が「いるにきまつてるでしょ。」と答える。</p> <p>⑬教師が「この魔法の牛乳で遊ぼうか。」と言って、バケツをベランダに置いてある箱積み木の上に置く。</p> <p>⑭A・B・C・D・E児、バケツの中の白色水をお玉で空容器に入れる。B・C児はそばにある箱積み木の上に空容器に入れた白色水を並べる。</p>	<p>①教師は初めての素材を魅力的な演出で提示する。</p> <p>②教師の言動に興味をもつ。</p> <p>③白色水を見て牛乳を連想し、言葉に出す。</p> <p>④幼児の反応を受け止める。</p> <p>⑥A児は疑問を言葉に出す。教師は、A児の言葉をそのまま返し、一緒に考える。</p> <p>⑧教師とのやりとりにかかわりなく自分の考えたことを言葉に出す。</p> <p>⑩教師は、幼児のイメージに沿って提案する。</p> <p>⑪感じたことをそのままを言葉にする。</p> <p>⑫A児は、魔法使いという言葉にこだわりをもっている。</p> <p>⑬幼児のイメージに沿って遊びを提案し、環境を再構成する。</p> <p>⑭設定された環境で自分なりのやり方で遊ぶ。</p>

<p>⑮ A児は、「Aちゃん、これ。」と言って、保育室のままごとコーナーからやかんを持ってくる。</p> <p>⑯ E児が「カルピスだ。」と言うのを聞き、A児が「違う。牛乳でしょ。」と言う。二人のやりとりを聞いて、教師が「カルピスにも牛乳にも見えるね。」と言う。</p> <p>⑰ 教師が「もう一つあったよ。」と赤色の絵の具を入れたバケツを保育室から持ってくる。そこにいた幼児全員が、「ええっ。」と驚く。</p> <p>⑱ 教師が「ちょっとお水入れてみようか。」と言い、水を少し入れると、周りの幼児がそれをのぞき込む。A児が「やった。イチゴだ、イチゴジュースだ。魔法だ。」と言う。</p>	<p>⑮ A児は思い付いた材料を自分で取りに行く。</p> <p>⑯ A児は、E児の言葉に対して今までのイメージへのこだわりを言葉に出す。 教師はそれぞれの幼児のイメージをそのまま受け入れる。</p> <p>⑰ 幼児の動きや人数に応じて環境を再構成する。</p> <p>⑱ 教師の言動に興味をもち、新しい色から浮かんだ新たなイメージを言葉に出す。</p>
--	---

【考察】

〈A児の自分らしさ〉

- ・教師の言動に関心をもち、興味をもったことには敏感に反応している。
- ・自分の思ったことをありのままに表現している。
- ・自分がこだわっていることについて友達が言ったことに対して、即座に自分の思いを言葉で表現している。
- ・友達が自分のイメージを受けてくれることで、友達存在を感じ始めている。
- ・興味をもつと自分なりに環境に働き掛け、試そうとしている。保育室内に設定された用具の種類や場所を知っていて、自分ですぐそれを使う。
- ・周りのやりとりを聞きながら、自分のイメージの流れの中で思い付いたことをそのまま言葉で表現している。

〈充実した生活を送るための教師の役割〉

- ・それぞれの幼児の自由な発想やこだわりをありのままに受け入れ、教師への信頼感をもち安心して自分の思いを出せるよう受容的な態度で接していく。
- ・初めて経験する教材を提示する時は、幼児の興味や関心が高まるような魅力的な演出を工夫する。
- ・それぞれの幼児の身近なものを見立てた発想を生かし、周囲の幼児がそれなら知っていると思わず言葉に出したくなる雰囲気をつくり、周りの幼児の言動に興味をもち、自分以外の友達の存在に気付いていくことができるようにする。
- ・教師自身がめりはりのある魅力的な表情、言動で幼児に接していく。
- ・幼児と共に心を動かしていくことで、幼児が教師に親近感をもてる関係をつくっていく。

事例3 自分らしさを出しながら他の友達の動きを意識していく事例（3年保育3歳児9月）

幼児と教師の言動	分 析
<p>① A児が「ガオレンジャー。」と言いながら園庭に出て、B児の前に止まって「変身ブラック。」と言う。</p> <p>② A児が「おまえは何なんだ。」と聞くと、B児が「ブラックだ。」と答える。</p> <p>③ A児が「ブラックとブラックと一緒にじゃないか。」と言うと、B児は「ガオレンジャーはね、変身ベルト。」と言いながら急いで保育室に戻る。</p> <p>④ A児はB児の動きを一瞬目で追うが、「ガオレンジャー、ガオレンジャー。」と言いながら、時々「変身。」とポーズをとる。</p> <p>⑤ C児とD児がプランターを動かしてダンゴ虫を探している様子を見て、A児は「ようし、変身ブラック。」と言い、変身のポーズをして、プランターを一人で動かす。</p> <p>⑥ C児とD児がびっくりしてA児を見ると、A児は「ガオレンジャー、変身ブラック。」と再びポーズをする。</p> <p>⑦ B児が画用紙で作った変身ベルトをつけ、A児のそばに来て「変身ブラック。」とポーズをする。A児は黙ってB児を見つめるが何も言わずダンゴ虫探しを始める。</p> <p>⑧ 翌日、A児は教師にB児と同じような変身ベルトを作りたいと言って教師と一緒に作り、「ガオレンジャー、変身ブラック。」と言いながらB児と一緒に園庭を走り回る。</p>	<p>① テレビのヒーローになりきっている。</p> <p>② B児のことが気になる。</p> <p>③ 自分の考えを言う。</p> <p>④ テレビのヒーローになりきっている</p> <p>⑤ ヒーローになりきったまま、C児とD児にかかわる。</p> <p>⑥ C児とD児が自分の動きに関心をもってくれたことがうれしい。</p> <p>⑦ B児のベルトに関心をもつが、直接は働き掛けない。</p> <p>⑧ 欲しい物があると教師に要求する。 B児と同じ物を身に付けて親しみを感じ、一緒に動くことを楽しむ。</p>

【考 察】

〈A児の自分らしさ〉

- ・ヒーローになりきった動きをありのままに表現することを楽しむ。
- ・友達の姿に興味をもつと、自分から働き掛ける。
- ・B児の変身ベルトに魅力を感じると、すぐにはまねをしないが、次の日教師に要求して自分も同じようなものを作って身に付ける。
- ・友達と同じものを身に付けて一緒に動くことで、友達の動きを意識して一緒に動く楽しさを感じ始めている。

〈充実した生活を送るための教師の役割〉

- ・それぞれの幼児のイメージ、興味のもち方、表現の仕方を受け止め、イメージに沿った素材の提示、動きそのものを楽しめる雰囲気づくりなど、一人一人の幼児に応じて環境を整える。
- ・教師も遊びの中に入り楽しさに共感しながら、幼児が互いの動きや言葉のどこに興味をもっているかとらえ、一緒に楽しめる遊びに流れを作るなどの工夫をする。
- ・この時期は、自分のしたいことや気持ちをそのまま表すことが多いので、トラブルが起こりやすい。教師は、互いの思いを受け止めて気持ちを落ち着かせ、友達とかかわる楽しさを感じさせていく。

事例4 友達とのかかわりの中で自分らしさの出し方を模索している事例

(2年保育4歳児6月)

幼児と教師の言動	分 析
<p>①A児は登園するとすぐ、積み木で場を作り始めたB児に「いれて。」と聞く。B児に「いいよ。」と言われ、うれしそうに「ありがとう。」と言う。C児、D児も仲間入りする。</p> <p>②A児は、積み木の囲いの中央に積み木を置き、その上にカセットデッキを置く。B児に「ドレミの歌やろう。」と言うと、強い口調で「まだ。」と言われ、黙ってカセットを見る。</p> <p>③A児はB児に「お母さんごっこしよう。Aはお姉ちゃん。」と言いながら、囲んだ積み木の上に板を置くと、「やめて、ここはご飯を食べる所なの。」と言われ、板を片付ける。</p> <p>④A児がレースの布を2枚持って来て、「私の布団どれにしよう。」と言うと、B児に「まだ。」と言われる。A児はそばのピアノの所へ行き、両手でふたをたたく。</p> <p>⑤A児は製作コーナーへ行き、空き箱にペットボトルのふたをたくさん入れ、セロファンテープで止める。「お菓子もってきた。」とB児に言うが、反応がないのでピアノのふたの上に置く。</p> <p>⑥A児は囲った積み木の端に電話を置いて受話器を取り、「Cちゃんパパだって。」と渡す。C児が話して電話を切ると、今度は自分で話し始め、「パパおそいんだって。」と言って切る。</p> <p>⑦B児が作っていた積み木がくずれる。教師が「誰かに持っていてもらわなければだめかも。」と言う。</p> <p>⑧A児はB児の積み木を押さえながら、「Bちゃん。」とにこにこしながら声を掛けるが、B児は反応をしない。</p> <p>⑨くずれたところができあがったので、そこをA児がくぐろうとすると、B児に「だめ。」と言われる。教師が「いいじゃない。通りたいよね。」と言うと、B児は、「窓ということが分かんない。」と言う。</p> <p>⑩A児は教師の方を見て、「通りたくない。」と言う。</p> <p>⑪A児は「赤ちゃんを持ってこよう。」と人形を抱いてきて、B児に「赤ちゃん。」と見せるが、B児は「赤ちゃんはいらない。何で、妖精に赤ちゃんがいるの。」と強く言う。</p> <p>⑫A児は「妖精か、赤ちゃん捨ててくる。」と言って、ままごとコーナーに人形を置き、「バイバイ。」と手を振る。</p>	<p>①A児はB児の遊びの仲間に入れてもらえてうれしい。</p> <p>②遊びの進め方を提案するが、B児に受け入れられない。</p> <p>③遊びのイメージを言葉にして動くが、B児に拒否される。</p> <p>④自分のイメージを実現しようとするが拒否され、悔しさをピアノをたたくことで表す。</p> <p>⑤イメージをもつとすぐ働き掛けるが、B児に受け入れられない。</p> <p>⑥C児にイメージを受け入れられ、イメージを楽しんでいる。</p> <p>⑦教師はA児の存在をB児に認めさせたい。</p> <p>⑧教師の言葉を受けてすぐ動く。</p> <p>⑨A児は一緒に作ったうれしさを表現するが、B児に拒否される。</p> <p>⑩教師の言葉より、B児の気持ちが気になる。</p> <p>⑪お家ごっこのイメージでB児に働き掛ける。</p> <p>⑫初めてB児のイメージを知り、それを受け入れる。</p>

- ⑬場ができて、B児が「みんなご飯ですよ。」と声を掛ける。
- ⑭A児は、C児の隣に座ろうとする。B児は「そこは、Bの席。」と言って手を強く引っ張る。A児は「A、座りたい。」と言ってどかない。
- ⑮B児は「私が決める。Aちゃんがあっちの席。」と再びA児の手を強く引っ張って立たせようとする。
- ⑯A児は「あっちは一人じゃない。」と向かいの椅子を指さしC児にしがみついて、「Cちゃんの隣がいい。」と言う。B児がA児の隣にきて引っ張ろうとする。A児はB児に大声で「Bちゃんなんか大嫌い。」と泣く。
- ⑰教師が「Aちゃんも一緒に座りたかったのね。」と言って、A児を抱き「お友達のそばに座りたかったのに、ダメと言われて悲しかったのね。どうしようか。」と言う。
- ⑱A児は泣き止み、「外で遊ぶ。」と言って園庭に出ていく。

- ⑭C児、D児の隣にいたい気持ちが強い。
- ⑯今まで、B児の言動を受け入れて来たが、自分の存在が受け入れられていないと感じ、強く主張する。
- ⑱教師に気持ちを受け止められ、気分転換する。

- ⑲A児は保育室に戻ってくる。「次、何やろうかな。」と言いながら、テラスにおいてあるカセットデッキを持って室内のソファのあるコーナーに置く。
- ⑳「みんな、たけのこ体操。」と言ってデッキのスイッチを入れ、「Eちゃん。」と製作コーナーに居たE児を連れて来る。
- ㉑E児と一緒にデッキの所に戻り、2人で向き合い、にこにこしながら体操をする。
- ㉒曲が終わると、E児が「もう一回。」と言うが、A児は「だめ。今度はこの曲。」と自分で選んだ曲をかけて2人で踊る。
- ㉓2曲続けて踊り、終わると「お疲れさまでした。お茶をどうぞ。」と側に置いてあったままごとのカップをE児に一つ渡し、自分もカップを持って飲む真似をする。
- ㉔自分が飲み終わると「もうだめ」とE児からカップを取る。
- ㉕A児はレースの布を持ってきて、「A、ここで寝るから。Eちゃんはここね。」とソファの場を指しながら布を置く。
- ㉖5歳児が「パン屋に来て。」と誘いに来ると、A児は一人で5歳児の保育室に行き、パン屋の店の中に入り、「何、入っているの。」「緑は何ですか。」とそばにいる教師や5歳児に聞く。
- ㉗教師が「チーズとか野菜とかいろいろ。」と答えると、「野菜とチーズください。」と言って、パンをもらう。

- ⑲次の遊びを探している。
- ㉑E児と一緒に遊びたい気持ちをすぐ行動に移す。
- ㉒二人で踊って楽しい。
- ㉓E児の言葉は受け入れず、自分の思いを出す。
- ㉔自分のイメージを言動に表して楽しむ。
- ㉕自分の思いだけでE児に働き掛ける。
- ㉖自分のイメージをE児に伝えている。
- ㉗5歳児の誘いに興味をもち、すぐ行動する。興味をもったことを言葉に出す。
- ㉘自分のほしい物を言葉で伝える。

【考察】

〈A児の自分らしさ〉

この事例では、B児、E児、5歳児とのかかわりの場面でのA児の「自分らしさ」にはそれぞれ大きな違いがあるように見える。しかし、A児の行動を分析する中で、それぞれのかかわりの中で表している姿に違いはあっても、A児の「自分らしさ」としてとらえられるものが少しずつはっきりしてきた。

そこで、それぞれのかかわりの場面でのA児の「自分らしさ」をとらえ、それぞれの場面で教師はどのような役割を果たしたらよいかを考えるとともに、今後、A児の「自分らしさ」を生かしていくための教師の役割を考えた。

B児とのかかわりの中で

- ・自分なりの遊びのイメージがあり、自分から環境に働き掛ける。
- ・B児とのイメージのずれは、B児に言われるまでは気付かない。
- ・B児と一緒に遊びたい気持ちが強く、B児の言葉に従う。
- ・自分の存在が受け入れられていないと感じるとB児の指示を強く拒否する。
- ・教師の言葉より、B児の言動を強く意識していたが、B児とのトラブルで気持ちを整理できない場面で教師に受け止められ落ち着く。

E児とのかかわりの中で

- ・自分のイメージや思いを出して、環境にかかわる。
- ・E児の思いにかかわりなく、自分の考えたことをE児にもするよう要求する。
- ・E児が自分と同じ動きをしてくれることに楽しさを感じる。

5歳児とのかかわりの中で

- ・興味をもつと、一人でも5歳児の保育室に自分から行く。
- ・5歳児に対して、自分の思ったことを言葉で言う。
- ・「パンや」という状況を理解し、思い付いたことを言葉に出して、やりとりを楽しむ。



〈充実した生活を送るための教師の役割〉

○自分の思いが受け入れられず、自分の出し方を模索している姿に対して

- ・ A児がやりたいことを楽しんでいる姿に共感し、必要な材料や遊具を提示していく。
- ・ 「友達と一緒に遊びたい」という思いを受け止めて言葉にし、その場にいる幼児に気付くようにする
- ・ A児が他の幼児のイメージや考えに目を向けるよう友達の動きを言葉にする。その際、B児だけでなく、C児、D児の動きも意識付ける。
- ・ A児、B児、C児、D児それぞれが自分のしたいことが楽しめるよう場を再構成したり、材料を提示したりする。

○相手の思いにかかわらず、自分の思いを出して遊んでいる姿に対して

- ・ 友達と同じ動きをする楽しさを感じている姿に共感するとともに、相手の幼児が楽しさやつまらなさを感じている場面を見逃さず、それを言葉にし、A児に気付かせていく。
- ・ 自分たちで遊ぶ場を確保し、A児、E児それぞれが自分のしたいことを楽しめるように遊びに必要な材料や用具を興味・関心に応じて提示する。

今後、A児の「自分らしさ」を生かしていくための教師の役割

○それぞれの幼児が自分らしさを発揮できるように

- ・ それぞれが今何をすることで遊びを楽しめるかをとらえ、一人一人に応じた援助を工夫する。
- ・ 始めた遊びがより楽しくなるようなイメージを投げ掛けたり、興味・関心に応じて場や物を提示する。
- ・ 絵本を読む、様々な素材を使って製作する、描画を楽しむなどいろいろな体験の機会をつくり、より豊かなイメージをもったり、イメージを表現する方法が身に付くようにする。

○友達の思いや考えに気付いて、共に遊びを楽しむことができるように

- ・ 教師も遊びに入って、友達とかかわって遊ぶ楽しさが味わえる機会をつくる。
- ・ A児が自分で気持ちをコントロールできた時を見逃さずに認めていく。
- ・ A児の思いが通らない場面をとらえて、A児の気持ち、周りの幼児の気持ちを受け止めながら、互いの気持ちに気付いていくようにする。
- ・ A児の「自分らしさ」を認めながらも、友達に受け入れてもらえない「自分らしさ」に気付かせ、自分なりに乗り越えられるよう励ましたり、支えたり、他の方法を知らせたりする。

事例5 外国籍の幼児が興味をもった遊びの中で友達との触れ合いを楽しんだ事例

(2年保育4歳児10月)

A児は今年家族と来日し、5月より幼稚園に入園した。父親は日本語がほぼ分かる。母親は来日後、日本語学校で勉強している。

一学期は新しい環境に興味をもち喜んで登園した。2学期に入り、友達に目が向き始め、友達とかかわることが多くなったが、互いの気持ちが伝わらず「黙って入った。」などもめごとになり浮かない顔をして主任に話しかけたり、職員室で遊ぶ姿が多くなった。

学級のみなですることは周りの幼児の動きを見て自分も動いている。好奇心旺盛で何でもやってみようとする。日本語を覚え始めているが、自分のしてほしいことは身振りで伝えることが多い。

幼児と教師の言動	分 析
<p>①A児は登園して身支度をすませると、廊下にある井型ブロックを一人でする。そばで井型ブロックで遊んでいる友達の笑い声がするとじっと見ている。</p> <p>②H教師がそばに行くとはほえみ、作っているブロックを見せる。H教師が「鉄砲。」と言って指で鉄砲を作るとうなづく。</p> <p>③H教師はA児とブロックを保育室に運ぶ。それを見たB児とC児がA児に「入れて。」と言うが、A児は返事しない。</p> <p>④H教師が「A君、お友達がブロックやりたいから入れてって言うてるよ。」と言うと、H教師の顔を見てうなづく。</p> <p>⑤B児とC児はA児の隣で互いに話しながら作る。A児は見向きせず作り、できあがるとH教師に「ヘリコプター。」と言って見せ、飛ばすまねをする。</p> <p>⑥A児が、担任のI教師に「先生。」と作ったヘリコプターを見せに行く。そこでD児、E児、F児、G児の4人がガオレンジャーのお面を作っているのを見付け、じっと見る。</p> <p>⑦G児が「できた。」とI教師に見せに行くと一緒に歩いて行き、I教師とG児のやり取りを見つめている。</p> <p>⑧A児は思い切ったように「…。」と言うが、I教師は気付かない。H教師が「大きな声でもう一度言ってごらん。」と言うと、深呼吸をしてI教師の顔を見て「…。」と言い、G児のお面を指さす。</p> <p>⑨I教師が「A君もガオレンジャーになりたいの。作る。」と聞くと、A児はにっこりうなづく、画用紙とクレヨンを出しG児のお面をじっと見る。I教師が「A君、G君に見せてって言うんだよ。」と言う。A児が「見せて。」とG児に言うとG児は「いいよ。」と答える。</p>	<p>①好きな遊びに自分から取り組む。友達の様子が気になる。</p> <p>②教師に認めてほしい。</p> <p>③教師は、A児の様子から友達に関心をもっているのだから、かわりをもてるよう場を移す。</p> <p>④友達の働き掛けに直接は答えないが、教師の仲介で反応する。</p> <p>⑤教師に認めてほしい。</p> <p>⑥担任にも自分のしたことを伝えたい。</p> <p>⑦友達のしていることに興味をもつ。</p> <p>⑧教師の励ましで、自分の気持ちを伝えようとする。</p> <p>⑨教師は、A児がお面づくりに興味をもっていることを受け止め、友達とのかわりの仲立ちをする。A児は、教師の言葉掛けで、友達に働き掛ける。</p>

<p>⑩ I 教師が「G君たちがかっこういいの作っているからA君も作りたくなっただって。」と言うと、F児が「A君もガオレンジャーやるの。ガオレッド？ 僕、ガオシルバー。」とA児の顔をのぞき込みながら聞く。A児はF児を見て何度もうなづく。</p> <p>⑪お面ができあがるとそれをかぶり、以前に作った黒い衣裳を着て友達と一緒にガオレンジャーのポーズをする。</p> <p>⑫G児が音楽をかけてガオレンジャーごっこがはじまり、一緒に走ったり、ポーズをしたり、戦ったりする。A児はガオレンジャーになりきり真剣な顔で戦う。</p> <p>⑬翌日もA児はガオレンジャーになって、G児たちと一緒に遊ぶ。</p>	<p>⑩教師の言葉掛けをきっかけに、友達の言葉にうなづく。</p> <p>⑪友達と同じものを作った</p> <p>⑫ことをきっかけに友達と一緒に動くことを楽しむ。</p> <p>⑬前日のかかわりを引き続いて楽しむ。</p>
---	---

【考察】

〈A児の自分らしさ〉

- ・井型ブロック、お面づくりなど興味をもった遊びでは、きっかけがつかめれば自分のしたいこと、作りたい物など自分なりの目的をもち、遊びにじっくり取り組んでいる。
- ・自分の興味のあることを友達がしていると関心をもつが、自分からは直接働き掛けない。
- ・やりたいたいことがあると、教師に働き掛けるが、伝わらないとあきらめる場合もある。
- ・友達と同じ物を作って身に付ける、という具体的な遊びの手掛かりを得たことで友達の動きを見て真似たり、一緒に動いたりしてなりきって遊びを楽しむ。

〈充実した生活を送るための教師の役割〉

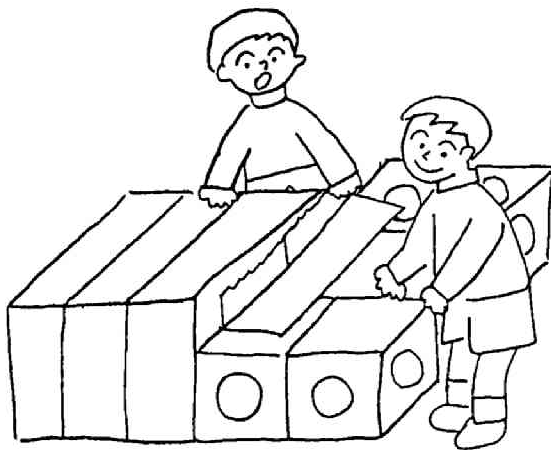
- ・教師を介して自分のしたいことを実現しようとする姿が見られるので触れ合いを多くし、安心してかかわれる関係をつくっていく。
- ・目的をもてばじっくり取り組む幼児なので、自分のやりたいことを楽しみながら、友達とかかわりがもてるように環境の構成を考える。
- ・教師がA児と一緒に遊び、かかわりを深め、周りの幼児がA児の遊びに入るような機会をつくって、教師が仲介してお互いの気持ちを感じながら遊びの楽しさを味わえるようにする。
- ・言葉のやりとりがあまり必要でない動きを伴う遊びの中で、友達と同じ場で同じように動く、自分なりの動きができる、役になりきる、などの楽しさが感じられるような活動を提示したり、きっかけとなる身に付ける物を作る材料を設定するなどの環境を構成を工夫する。
- ・思いが通じないとあきらめてしまう姿も見られるので、日頃の姿を丁寧に見て、A児の思いを受け止めていく。その際、A児の遊びや友達への関心のもち方の変化を見落とさないよう園内全体で教師が気付いたことを伝え合い、理解を深めていかれる協力体制を整えていく。
- ・友達の動きに関心をもつようになってきているので、降園後も友達と遊ぶ機会がもてるよう保護者にも働き掛ける。また、幼児同士のトラブルがあった時には、状況や対処の仕方、教師の受け止め方などを両方の保護者にきちんと伝え、保護者同士の理解を図ることができるようにする。

事例6 友達とのつながりの中で、自分らしさを生かしながら遊びを楽しんだ事例

(2年保育5歳児11月)

A児は、遊びのイメージが豊かで、身近な環境に積極的にかかわり、自分の思いや考えを表現していくことができるが、自分の思い通りに遊びを進めていこうとする気持ちが強い。そのため友達の思いや考えを受け入れられずぶつかる姿が見られたが、相手の思いやよい所にも気付き始め、友達と一緒に遊びを進めていくことを楽しみだしている。

幼児と教師の言動	分 析
<p>①A児、B児、C児、D児、E児の5人で積み木を使って基地を作る。A児が「ここもぐる所。」と言うと、B児が「いいね、もっと長くする。」と言い、箱積み木と板積み木を使って長くつないでいく。</p> <p>②A児が「洞くつみたいだ。もっとつなげて洞くつにするのどう。」と言うと、他の幼児も「洞くつ、いいね。」と言い、さらにつないでいく。</p> <p>③A児が「ちょっと入ってみよう。」と言い、中に入っていくと、みんなも続いて入っていく。中で「わあ、暗い。」「ぶつかる。」「ゆっくりいけ。」などと声を掛け合う。</p> <p>④A児は「暗くていいね。」と後ろから出てきたE児にうれしそうに言い、E児も「おもしろいね。」と言う。みんなで繰り返し入って遊ぶ。</p> <p>⑤A児が「入り口狭いから、板を減らす。」と言い、2枚の板積み木を取り、代わりに箱積み木を置き階段のようになる。</p> <p>⑥しばらくして、C児が、四角いカーペットを持ってきて入口をふさぎ、「よし、これでいい。」とうれしそうに言い、横に置いたゲームボックスから洞くつに入れるようにする。</p>	<p>①思い付いたことを友達に伝え、すぐやってみる。</p> <p>②浮かんだイメージを友達に提案する。</p> <p>③自分たちの作った場を友達と一緒に確かめる。</p> <p>④友達と一緒に場を作った喜びを共感する。</p> <p>⑤思い付いたことをすぐやってみる。</p>



- | | |
|---|--|
| <p>⑦A児が「入り口ふさいだら通れないよ、誰がしたの。」と大きな声で言う。C児が「A君、あのさあ。」と言おうとすると、A児は「なんで、通れなくなっちゃう。」と言う。</p> <p>⑧C児が小声でうれしそうに「違うの、おもしろいこと考えたんだ。通ろうとすると通れなくて。でもね、ゲームボックスの方から行くと通れるってこと。」と言うのを聞き、A児の表情が次第に和らぎ、笑ってうなずき「おもしろいよ、いいね、やってみる。」と言い、ゲームボックスをくぐって行く。</p> <p>⑨教師が「いろいろ変身しておもしろいね。」と言うと、A児とC児が「おもしろくなったんだよ。」とうなずき合う。</p> <p>⑩B児たちが洞くつの中の通路を曲げることを思い付き、「おおい、ここから曲がるようにするから。」と周りの幼児に声をかける。A児が「いいね、もっとつなげようぜ。」と言う。</p> <p>⑪A児は「トンネルみたいにしようか。」と言い、D児と一緒に段ボールの箱を持ってきてつなぐ。段ボールや積み木がなくなると、ゲームボックスや四角いカーペットなどを探してきて、つないでいく。</p> <p>⑫C児が「いいこと考えた。」と言い、紙を丸めて洞くつの中に入れ、「芋虫だ。」ところがす、E児は懐中電灯を持ってきて洞くつの中を照らす、B児は洞くつの上に登って、積み木をたたいて音をさせる、などそれぞれの幼児が思い付いたことを試し、みんなで繰り返し遊ぶ。</p> <p>⑬教師が「洞くつ、長くなったね」と言うと、A児が「中に入ってみる」と言う。B児が「もぐって行くんだよ、暗いからね、驚かないでよ」と言う。教師が洞くつに入るとそれぞれの幼児が教師を驚かそうとする。</p> <p>⑭教師が洞くつから出てきて、「怖かった、でもおもしろかった。」と言うと、みんな満足そうな顔をする。</p> <p>⑮教師が「前、洞くつに行っことあるの、暗くって、はいつくばって通る所や違う道もあったかなあ。」と言う。それを聞いて、A児は「狭い所とか坂道とかいろいろなところ作る。」、D児は「お化け屋敷のときみたいに滑り台を使う。」、B児は「違う道も作る。」とそれぞれが自分の考えを言い、必要な物を探してきて場を変化させていく。</p> <p>⑯おうちごっこをしていた幼児たちが来て、「おもしろそう、洞くつ探検させて。」と言うと、A児たちは相談して他の幼児を客にして遊びを続ける。</p> | <p>⑦自分のイメージと違うので友達のことを強く拒否する。</p> <p>⑧友達の考えを聞いて、納得して受け入れる。</p> <p>⑨教師は、遊びの変化を受け止め、楽しさに共感する。</p> <p>⑩友達の新しい提案を受け入れる。</p> <p>⑪友達の提案を具体化する方法を思い付き、環境にかかわる。</p> <p>⑬教師は遊びに参加して遊び</p> <p>⑭の楽しさに共感する。</p> <p>⑮教師は遊びをさらに楽しくしていくイメージを投げ掛ける。
教師の言葉を受けて、イメージをふくらませ、必要なものを自分たちで考えて場を変化させていく。</p> <p>⑯他の遊びをしていた友達を受け入れ、遊びを進めていく。</p> |
|---|--|

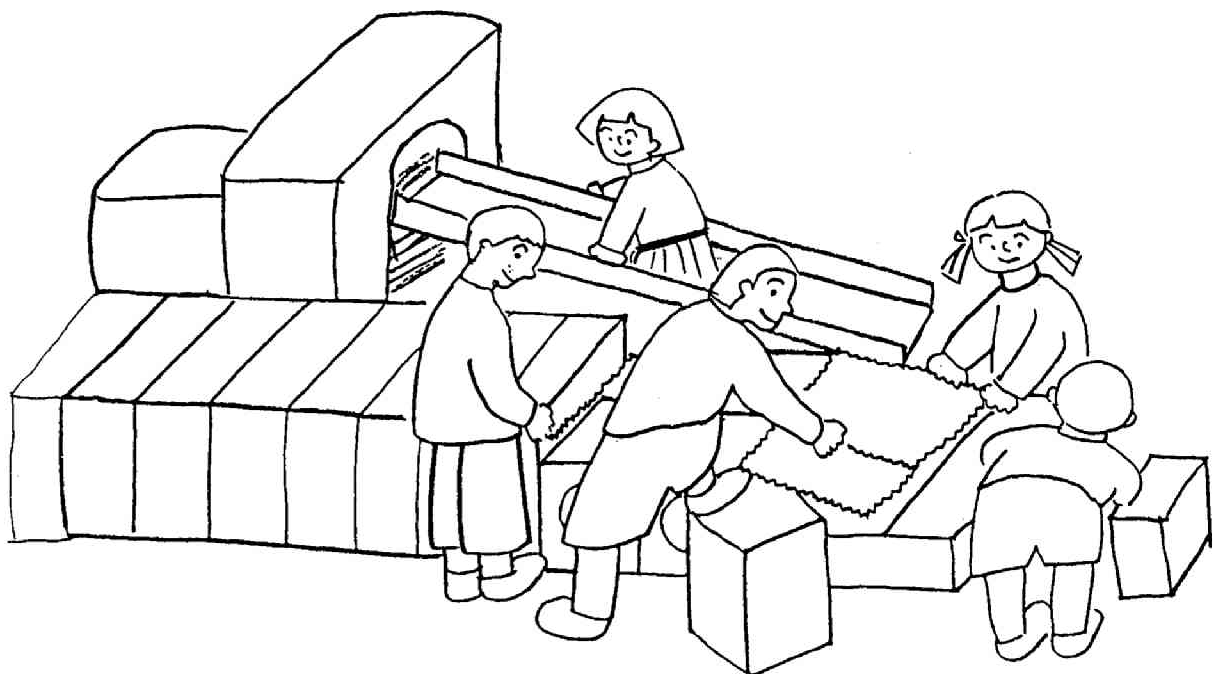
【考察】

〈A児の自分らしさ〉

- ・一緒に遊ぶ友達と仲間としてのつながりを感じ、自分のイメージを出したり相手のイメージを受け入れようとしたりしながら、友達と一緒に遊びを楽しもうという気持ちをもっている。
- ・身の回りにある遊具や材料を使って遊びを変化させたり、友達に積極的に働き掛けたりして、自分の考えを実現しようとしている。
- ・遊びのイメージが友達と違うと、はっきりと自分の考えを主張するが、相手の言うことを聞いて納得すれば受け入れる。
- ・友達の考えを受け入れることで遊びがさらに楽しくなることを感じ、友達のよさに気付いて遊びを進めようとする。
- ・教師の働き掛けを自分たちの遊びの中に取り入れ、遊びの場を変化させ楽しくしていこうとする。

〈充実した生活を送るための教師の役割〉

- ・友達と互いに考えやイメージを伝え合いながら遊びを進めて楽しさを感じている姿を受け止め、それぞれの幼児が自分のよさに気付いて自己肯定感をもてるようにしたり、相手のよさを感じて認め合ったりできるようにしていく。
- ・遊びが変化していくことでより楽しさを感じることができるよう、教師自身も遊びに参加し、イメージをふくらませる言葉を掛けたり、新たな材料、遊具、場などを幼児の興味や関心に応じて提示する。
また、自分の考えやイメージを実現するための技能を必要に応じて習得できるように援助する。
- ・それぞれの遊びのグループが互いに刺激し合って遊びを展開することで、新たな楽しさが生まれ、友達や遊びの幅が広がるよう、遊びの進め方に応じてかかわりのきっかけなどをつくる。



Ⅲ まとめと今後の課題

1 幼児が自分らしさを発揮して遊びを楽しみ充実した生活を送るための教師の役割

研究を進めていく中で、幼児の「自分らしさ」の発揮の仕方は、一人一人の幼児の発達の特性や、生活環境によって、それぞれ異なっていることを確認した。さらに、同じ幼児でも、その場の状況やかかわる相手によって「自分らしさ」の表し方が変化することが分かった。

教師は、幼児一人一人の姿からその幼児のありのままの「自分らしさ」についての理解を深めるとともに、幼児が幼稚園における集団とのかかわりの中で充実した生活を送るために必要な経験ができるように役割を果たしていくことが大切である。

そこで、幼児の姿に応じて教師の役割を次の3つにまとめた。

◎幼児が園生活で安心して「自分らしさ」を出すようになるための教師の役割

入園したばかりの幼児の姿は、入園できたことがうれしくてにこにこ元気に登園する、母親と離れられない、部屋の隅でじっと動かない、興味のおもむくままに遊びを変えるなど一人一人違っている。これらの姿は、新しい環境や友達との出会いに対する期待や戸惑い、不安な気持ちなどのその幼児なりの表現である。

- 幼児が安心してありのままの「自分らしさ」を出して、園生活の中で自分の動きを出せるようにするために…教師は、幼児がどのような自分の気持ちの表し方をしているか、そのまま共感的に受け止め、その幼児を理解し、受け止めようとする姿勢をもつことが大切である。それによって、幼児が教師は自分のことを分かってくれていると感じて、ありのままの「自分らしさ」を出すようになる。
- 幼児の理解を深めるために…家庭との連携を図り、入園までの生活経験や、入園後の家庭での様子を把握し、幼稚園における幼児の姿を多面的に理解するようになる。
- 幼児が自分なりに環境にかかわって遊ぶようになるために…幼児の興味や関心をとらえ、思わずかかわりたくなるように遊具や素材の提示の仕方を工夫したり、幼児が興味をもったことに安定してかかわれるような場をつくったりする。そして、それぞれの幼児なりの環境へのかかわり方を教師が受け止めることによって、幼児は、幼稚園が安心して「自分らしさ」を出していくことができる場であることを感じ、園生活を楽しむようになる。

◎幼児が環境とかかわって「自分らしさ」を発揮し、様々な体験を通して発達に必要な経験をするための教師の役割

幼児は、幼稚園の環境や集団生活の雰囲気慣れてくると、「自分らしさ」を発揮し自ら環境に働きかけて自分なりのイメージを実現しようとするようになる。また、友達と一緒にいると楽しいということを感じ始めるとともに、互いの思いが違っていることにも気付いて、自分の思いを譲れずトラブルになることもある。

- 幼児が遊びの経験を広げたり、自分のやりたいことを実現したりできるようにするために…幼児の遊ぶ姿から興味や関心を受け止め、必要な材料や用具を提示したり、一緒にいたい友達と過ごす楽しさが感じられる物や場を提示したりする。
- それぞれの幼児がそれぞれの思いや考えをもっていることに気付かせるために…教師は、幼児が友達と同じ動きをする楽しさを感じている姿に共感するとともに、友達の考えやイメージにも目を向けるよう、遊びの仲間としてかかわる中でそれぞれの幼児の動きを言葉にしたり、気持ちを受け止めて言葉にしたりする。

◎幼児が「自分らしさ」を発揮して遊びを楽しみ、自分自身の新たな可能性に気付いていくための教師の役割

幼児は、集団生活に慣れ、伸び伸びと「自分らしさ」を出して園生活を送るようになると自分なりのイメージにこだわりをもち、実現するために積極的に環境に働き掛け、さらに友達と一緒にその遊びを楽しもうとするようになる。しかし、その過程で様々なつまづきや葛藤を体験している。

- 幼児が自分のよさに気付いていくようにするために…教師は、周りの友達からその幼児のよさとして受け入れられる「自分らしさ」を認め、自分自身に肯定感がもてるようにする。逆に受け入れてもらえない「自分らしさ」もあることを周りの友達の反応から感じ取らせ、友達に受け入れられる方法に気付かせていく。そのために、教師は日々の遊びや生活で、幼児が友達とのかかわりの中で変容していく姿を受け止め、互いのよさに気づき、互いの違いを認め合える学級づくりをしていくことが大切である。
- 幼児が自分の思い通りにならない体験を乗り越えていくことができるようにするために…幼児が「自分らしさ」を発揮する過程で、「こうしたい。」という思いで環境にかかわっても思い通りにならないと感じることがある。教師は、幼児の自分の思いを実現したい気持ちに寄り添いながら、幼児の技能に応じて具体的な方法を知らせる、友達の力を借りて取り組むことができる環境を構成する、自分自身の力で取り組もうとする姿を見守り、励ますなど、その幼児の興味や関心のもち方、意欲に応じて適切な援助をしていく。その際、取組の結果よりも幼児が自分の思い通りにならないことを乗り越えていこうとする過程に共感し、支えていく雰囲気をつくっていくことが大切である。

また、遊びの中で友達と互いの思いがぶつかり「一緒に遊びたいのにうまく遊べない。」と感じている場面では、教師はそれぞれの幼児の「こうしていきたい。」という思いとともに「一緒に遊びたい。」という気持ちを受け止め、時には自分の気持ちを抑制して相手の考えを受け入れることで友達とかかわる喜びが感じられるようにする。さらに、幼児がこれまでの友達とのかかわりの中では気付かなかった自分のよさに気付いていくことができるように、いろいろな友達とかかわる活動を提示したり、それぞれの遊びのグループがかかわるきっかけをつくったりして、互いに刺激し合って遊びを展開できるようにする。

これらを通して、それぞれの幼児が自分自身の新たな可能性に気付いていく。

2 今後の課題

保護者の考え方の多様化、情報化・核家族化などによる生活環境の変化から、入園してくる幼児が表す「ありのままの姿」も千差万別であり、教師が幼児一人一人の「自分らしさ」をまるごと受け止めることも難しくなっている。研究を通して、幼児が「自分らしさ」を発揮して充実した生活を送るようになるためには、教師は毎日の生活の中で揺れ動き、変化する幼児の姿から発達の見通しに基づいて必要な経験をとらえ、具体的な状況に応じて適切な役割を果たすことが大切であることが分かった。

研究の成果を踏まえて、日々の保育で環境の構成と幼児の活動する姿に応じた教師の役割を振り返り、具体的な保育の改善・充実に結び付けることができる評価の視点を明確にしていくことが今後の課題である。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号〕

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン